

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	精子幹細胞のアンチエイジング機構の解明
研究代表者	篠原 隆司 (京都大学・大学院医学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>応募者は、マウス精子幹細胞を樹立し、長期にわたって維持するというユニークな実験系を有している。これまでの研究により、精子幹細胞は、短縮状態で維持される特殊なテロメア状態、活性酸素種（ROS）に対する抵抗性や、低い突然変異率などを有することを見いだしており、本研究ではその分子メカニズムを追求しようとしている。また生体内での精子の老化に関して、加齢精巣の中での精子幹細胞を取り巻く体細胞からの影響に着目している。</p> <p>本研究は、基礎研究として独創性や実現性が高く、さらにアンチエイジング分野の応用研究としても大きな波及効果が期待できる。</p>